

10分でわかる

社会・経済のうごき@しんぶん.yomu

知っておきたい日本経済トピックスを新聞から抜粋しました。(公社)長井法人会(TEL88-3960 FAX88-3823)

企業の現預金、過去2番目の高水準

日銀の4～6月期の資金循環統計によると、6月末現在で企業の現預金は前年同月比6.9%増の220兆円に上がることが分かった。リーマン・ショック直後の2008年12月末以降19・四半期連続での増加で、日本の名目国内総生産(GDP)の約半分に迫る金額となっている。設備投資や賃金に回らずに、企業の現預金が積み上がっている構図となっている。

民間給与、正規と非正規の差は300万円

国税庁の実態統計調査によると、民間企業で働く社員やパート従業員の2012年の1年間の給与は408万円だったことが分かった。前年比で1万円の減少となり、ピーク時(1997年)の467万円から約50万円も減少している。また、正規雇用社員の平均給与は468万円だったのに対し、非正規は168万円で、300万円もの格差があった。

消費者心理が一転、先行き悪化懸念

日本リサーチ総合研究所の調査によると、今後1年間の暮らし向きについて「悪くなる」との答えが2か月前時点より5.3ポイント増の33.6%となり、これまで持ち直しつつあった消費者心理が一転していることが分かった。また、今後1年間の物価見通しでは、75.4%の人が「上がる」と答え、2008年10月期以来の高水準にあると同社は指摘している。賃金上昇が見込めない中で、原油価格や原材料高騰が消費者の先行き不安を拡げつつあることを浮き彫りにした。

家計の金融資産は1590兆円に増える

日銀の4～6月の期の資金循環統計で6月末時点での家計が保有する金融資産残高は前年同月比5%増加の1590兆円に上がることが分かった。アベノミクス効果を背景に株価上昇によって時下評価額が膨らんだとみられる。残高は過去最高を記録した2007年6月末の1602兆円に次ぐ大きさとなった。

建設人材不足、1994年以降で最高に

厚生労働省が3か月ごとに全国の建設会社を対象に実施している調査で、人材が「不足」と答えた割合は全体の33%に上り、逆に「過剰」は4%に止まり、「不足」から「過剰」を差し引いた数値はプラス29となり、調査開始の1994年以降で最も高いものとなっていることが分かった。東日本大震災の復旧・復興需要を契機に一変して建設業の人材難が始まり、とくに、型枠大工や鉄筋工、測量といった特殊技能を持つ人材不足が深刻となっている。

労働者の6割が仕事で強い不安を持つ

厚生労働省の2012年労働者健康状況調査によると、仕事で強い不安やストレスを感じている労働者は60.9%に上がることが分かった。不安やストレスを感じている労働者に原因となる問題を聞いたところ(複数回答)、「職場の人間関係」が最も多い41.3%で、「仕事の質」(33.1%)、「仕事の量」(30.3%)が続いた。

「リーダーになりたい」働く女性は18%

日本能率協会グループが働く女性を対象にしたインターネット調査で、「成功を導くリーダーになりたい」女性は18.9%で、多くが「成功を支えるメンバーになりたい」と考えていることが分かった。「支えるメンバー」を選んだ人を年齢別にみると、出産や育児期に当たる30代が92.4%で最も高かった。同協会では「生活重視と割り切っている女性が多い」とみている。

喋り過ぎる相手に不快感を持つ女性

文化庁の「国語に関する世論調査」で話相手から不快感を覚えるのはどんなケースかを成人男女に尋ねたところ(複数回答)、「態度が悪い」と「理解されずかみ合わない」がいずれも32%で最多だった。また「相手ばかりが話している」ことに不快感を持つのは、女性が33%で、男性が29%で、男性よりも女性が相手の喋り過ぎることに不快感を持つ傾向が高いことを示した。